

---

# 回想日記

九条 洸実

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

回想日記

### 【ZZマーク】

ZZ982M

### 【作者名】

九条 洋実

### 【あらすじ】

私が彼と付き合いはじめて、一ヶ月。

日記を開くと、思い出が花開いた。

咲白@彼女

私たちが付き合って始めて、もうすぐひと月が経つ。時間が過ぎるのはつて、早い。

あの時、私はどうかしてたんだらうな。酔つてたのかも。でなきやあんな事しないし、出来ないし。

それほど、気が変になるほど好きだったことかな。だとしたらうどつちみち重傷なんだけど・・・

七月十八日 曇り、後雨。

今日、初めて、咲白した。すつゝつゝつゝつゝい嬉しい！

返事もいい返事だった！ こんなに嬉しい事があつてもいいんだろつか？

そのときは、ホントに向にも考えられなくて、真っ白い世界に彼だけが、ぽんせりと浮かんだような、そんな、そんな感じ！ もう、もう、もう！ ああああ～！ 私もうだめかも！ とにかくこそう！ 顔が熱いよー！

咲白の言葉！ 『あなた、だいきりー』 ・・・  
きやー！ しゅうー！ はずかしー！  
つぶふ、幸せこひたつて寝るぞ！

\* \* \*

こつだつて、田線はどこかに浮いてる。

特に何もないのに左やや上に顔をそむけて。

ほら、今も。

私の事なんて見てもない。いないのと一緒になんだね、きっと。

話しかけても笑いもしない。

手にした本から目を上げもしない。

私の話はそんなにつまらない？

ねえ、聞いてる？

答えはいつも、『きいてるよ。』

椅子に横向きに腰かけて、足を組み替える。

手にした本から目を上げて、窓から外を見渡している。

・・・早朝の教室。

おはよー、に対する返事はいつも『うん。』

ねえ聞いて、こないだの模試悪くてね。

久々にミサに抜かされたんだ。

笑つて、平均六十点くらいだったんだ・・・笑えるでしょ？

・・・ねえ、聞いてる？

『きいてるよ。』

・・・聞いてないくせに。

ばかみたい。

私の中はあなたでいっぱいなのに。

あなたの中に、私はいない。

『・・・あの日は雨だったしな。しかもあんまり寝てなかつただろ  
?頭痛薬も飲んでたし。ま、次、しぐじるなよな。』

え?

知ってるの?

聞いてたの?

・・・気づいてたの?

雨の日は血圧が下がつていつも貧血氣味な事。

あの日眠れなかつたこと。

頭痛薬飲んでたこと。

見てないようで、ちゃんと見てる。

気のないふりして、気をかけてくれる。

聞いてないようで、全部覚えてる。

なんか、腹立つな。

ばかにしてるみたいで。

だから。

仕返し。

背中にまわつて。静かに。

静かに。

抱きしめて。

『あなた、大キライ』

・・・ほら。

なんでもないふりして。  
そんなの無駄だよ。

だつて、ほら。

鼓動の音は、隠せない。

咲白@彼女（後書き）

読んで頂き、誠にありがとうございました。  
気に入つて頂けたようでしたら@彼もよろしくお願いします。

## 爆睡@彼女

### 爆睡@彼女

告白の翌日、確かに結局眠れなくて、それでもなんとか登校して。ほんと、やられてるよなって思う。あの頃の私は。今は違うからって言わるとそういうでもない気がするし、また一ヶ月も経てば（あの頃はどうかしてたんだなー）って思うんだろうな。結局、放課後に机で寝ちゃったという・・・。ダメ女になつてますよ～、いや、なつてましたよ、かな？

七月十九日 晴れ

眠い、ねーむーいー  
ああもうねる  
ねる

翌日追記分ーー！

うわあ、いや・・・日記にも何にもなつてないよ！？  
まあ、気を取り直して・・・あ、時間が！この電車のがしたら彼と話す時間がなくなる！  
えと、夜ドキドキして寝不足で寝ました！  
・・・彼の腕で・・・あー！！  
行つてきます！

\*\*\*

眠たい。

とっても眠たい。

彼との会話も耳に入らないくらい。

『おーい、どうした?』

『ちょっと、ねでなくて』

床に座り込んで、彼も少しねむたそう。

いつもと違うのは、まっすぐにこちらを見ている事。

それだけで、搖らぎない自信になる。

こんなに幸せでいいのだろうか?

『始業まで、一時間半……』

『んー・・・・・?』

『少し寝なよ』

『んー』

あ、彼の腕の中、暖かそう。

あそこにしよう。

そのまま私は、眠りについた。

『……てるがー』

てるが? そつか。てるが? そつかそつか。

『時間迫ってるがー。』

それはまずこどうじょうえつととつあえずえつとまづだからつま

りえつと

『起きたか？　・・・起きるー。』

『あー、起きた。』

『大丈夫か？』

『うん、起きた。』

『起きてねえよ。覚醒しろー』

周りを見渡すと、そこは。  
屋上に続く階段の、一番上。

そう気がついたのは、三十秒後。

『あれ、エリエリエ。』

『授業始まるぞ。』

『あ、ん』

『起きる。』

起きると、われて。  
暖かくて、眠い。

寝汗がひどいけど、不思議と不快じやなく。

・・・・暖かい？

自分が彼の腕の中にいるところ、事実。  
覚醒の、瞬間。

なんでもいいんだ?

いつ寝てしまったの?

訊きたい事は、山ある。

けど。

けど。

『おはよー、ありがとう。』

それを云えて、教室に向かった。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2982m/>

---

回想日記

2010年10月14日13時57分発行